

未来に向かって 地域の方で 北陸新幹線を 京都府北部へ!!

京都府北部5市2町では、地域の活性化につながる「北陸新幹線京都府北部ルート」の実現に向けて取り組んでいます。市民の皆さんの応援をよろしくお願いします。



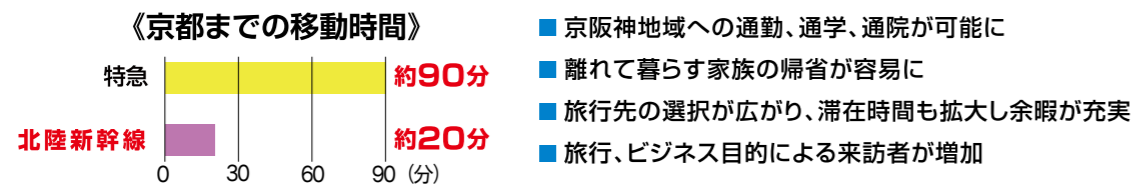
平成27年3月に「長野-金沢」間が開業した北陸新幹線は、日本海側の北陸地域に観光客の増加やビジネスの活性化など、大きな経済効果をもたらしています。

現在、北陸新幹線の「敦賀-大阪間」ルートの検討が行われており、「京都府北部ルート」を含む3ルートの中から決定されます。

北陸新幹線のルート選定は、日本全体の発展や日本海側国土軸の形成、他の新幹線とのネットワークなどを視野に入れることが重要であり、そのことを考慮すれば「京都府北部ルート」がこの地域の発展にも、日本の国益のためにも、最も効果的なルートです。(7ページ関連記事)

北陸新幹線は、私たちの暮らしやビジネスなどにさまざまな可能性を広げてくれます。

京阪神への移動時間が大幅に短縮(京都までの移動が約20分に)



地域の活性化(経済効果、新たな企業立地など)が期待

- 来訪者が増加することによる経済効果
 - 京阪神からのアクセスが容易になるため、広域的なビジネス展開による新たな企業立地、雇用の増加、人口の増加が期待
- 《北陸新幹線京都府北部ルート誘致促進同盟会事務局(企画政策課内、☎66・1042)》

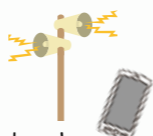
情報伝達訓練を実施 防災行政無線・メール配信サービスで

訓練は全国一斉に行われるもので、国からJ-ALERT(全国瞬時警報システム)を通じて送られてくる緊急地震速報や緊急情報(国民保護)を「防災行政無線」や「まいづるメール配信サービス」で市民の皆さんにお知らせするものです。

緊急地震速報伝達訓練…11月4日(金)10時ごろ
 緊急情報(国民保護)伝達訓練…11月29日(火)11時ごろ

【訓練内容】

- ◆防災行政無線放送…市内の屋外スピーカーと戸別受信機から試験放送を一斉に放送
 - ◆まいづるメール配信サービス…登録者(防災情報)に試験メールを自動的に一斉配信
- ※気象状況などにより訓練を中止する場合があります。
 ▶詳しくは、危機管理・防災課(☎66・1089)へ。



用途地域を見直した4つの視点

- ◆ライフスタイルを誘導する見直し
- ◆中心市街地の再構築を誘導する見直し
- ◆土地利用条件の変化に伴う見直し
- ◆土地利用の動向に伴う見直し

用途地域変更までの流れ	
平成27年7月	舞鶴市都市計画見直し基本方針策定
平成27年7月～平成28年3月	新たな都市計画制度検討会
平成27年11月	パブリック・コメント手続の実施
平成28年2月	説明会(計5回)
平成28年5月	変更案の閲覧・口述募集
平成28年7月	変更案の公告・縦覧
平成28年8月	舞鶴市都市計画審議会
平成29年1月	用途地域等変更

今回の変更は、これからの社会情勢に対応した、次世代に持続可能な都市づくりのために4つの視点から用途地域2、138箇所の584箇所と準防火地域7箇所を見直したものです。市の用途地域は昭和34年に定められて以来、大きな見直しは今回が初。

見直し内容

市では、平成27年7月に策定した舞鶴市都市計画見直し基本方針を基に、土地の使い方を決める用途地域等を見直しました。これにより変更のある場所では、建築できる建物の要件が変わることがあります。詳細は、都市計画課がホームページでご確認ください。
 ▼詳しくは、都市計画課(☎66・1048)へ。

説明冊子をご覧ください

用途地域の変更に関するまちづくりの目標や用途地域を見直す考え方の4つの視点、12種類の用途地域の特徴などをまとめた「土地の使い方のルールが変わります」を作製。同課に備え付けの他、市ホームページでも閲覧できます。

社会情勢に対応した持続可能な都市づくり
用途地域を変更 平成29年1月1日から

用途地域に変更があった地域の建築は?

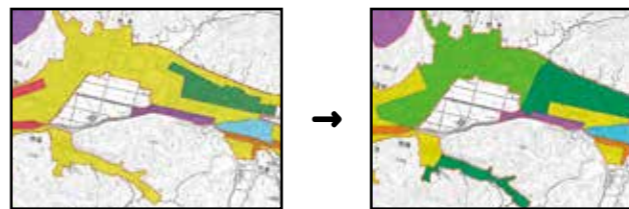
用途地域の変更によって基準が変わった地域でも、すでにある建物はそのまま使うことができます。また、建て替えなども一定条件の元で可能です。
 ※変更後新たに建築する建物は、変更後の基準に合わせて建てる必要があります。



説明冊子では今回の用途地域の変更や、12の地域の特徴などを分かりやすく説明しています。



駅前を中心市街地を形成、商業施設の集約を目指す他、周辺に都市型居住エリアを形成しコンパクトシティを目指します。
 ◆例…東舞鶴駅周辺、西舞鶴駅周辺(図は西舞鶴駅周辺)



郊外では、ゆとりのある住宅街が広がっており、これをさらに守り高めるための用途地域を設定。
 ◆例…泉源寺地区、七日市地区など(図は泉源寺地区周辺)

ここがポイント

時代に応じた都市づくり 用途地域変更の理由や紹介

社会情勢に対応した持続可能なまちづくりを目指した今回の用途地域の見直し。本市の目指す都市づくりの取り組みの一例を紹介します。

◆便利な中心市街地

人口減少や大型店舗の登場に伴い、中心市街地や商店街で空洞化や過疎化が進んでいます。そこで、交通の拠点でもある中心市街地に公共施設や日常生活を支える店舗などが集中する利便性の高い中心市街地を目指します。

◆ゆとりある住環境

一方、若者を中心に豊かな自然を身近に感じられる環境での生活を求めている人も増えています。そこで、郊外ではさらにとりのある住環境を守り高めます。